

# けんしん 受けてますか？

～特定健診&がん検診～



保健医療課 主任保健師

上 廣 早

4月は新しいことが始まる季節です。まずは体のチェックをしてみましよう。

庄原市は「一人一人の元気」「庄原市の元気」のために、『生活習慣病健診』を実施しています。本年度は健診のご案内を各世帯に郵送し、申し込みを受け付けています。『生活習慣病健診』では、『特定健診(基本健診)』、『がん検診』を受けることができます。

## 毎年「特定健診」を受けましよう！

平成20年から開始された『特定健診』。「メタボ」という言葉とともに定着してきました。

特定健診は、メタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病の芽がないか確認する健診です。生活習慣病は初期段階では自覚症状が少なく、気づいた時には重症化していることもある恐ろしい病気です。

平成26年度の広島県の特定健診実施率は23.9%と全国平均(35.4%)を大きく下回り、最下位となっています。「まだまだ元気だから」「体に不調があるわけじゃないし」など、自己判断で健診を遠ざけていませんか？

心も体も元気よく新しい何かを始めるために、特定健診を受けて体をチェックしてみましよう。

## 「がん検診」も忘れずに！

日本では、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなっています。しかし、がんは今や早期発見し治療することで治すことができる病気になってきています。

ことし1月、国立がん研究センターが初めてがん10年生存率\*の集計結果を発表しました。がんを部位別に見てみると、胃がんや大腸がんは診断から5～10年目の生存率が約70%で変わらず、5年後以降も再発の危険は高くありません。

しかし、乳がんや肝臓がん、肺がんは治療の目安とされる5年目以降も生存率が下がっており、経過の確認のため長期にわたる定期的な受診が必要です。

一方、乳がんや前立腺がんでも、早期にがんが見つかった場合では10年生存率が80%以上になっています。

このように、がんは発症から何年経っても再発の可能性があり、定期的な検診が必要です。最近では、乳がんのマンモグラフィ検査や前立腺がんの血液検査のように、検診の精度が向上し、早期のがんを発見することができるようになりました。

がんは初期の段階では自覚症状がないのが特徴です。がん検診を受けて助かる命があります。自分のため、大切な人のために、定期的ながん検診を受けましよう。

\*10年生存率：がんの治療開始から10年後に生存している人の割合のこと。

## 特定健診・がん検診を受けようと思ったら

ご自宅に郵送された『健診のご案内』をご覧ください。

同封の申込書を記入の上、保健医療課健康推進係または各支所担当窓口まで提出してください。

申込期限は4月21日(木)必着です。

### ●部位別5年生存率・10年生存率(%)

	5年生存率	10年生存率
胃がん	70.9	69.0
大腸がん	72.1	69.8
乳がん	88.7	80.4
肝臓がん	32.2	15.3
肺がん	39.5	33.2
前立腺がん	87.4	84.4

出展：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」